

# 2026年3月期第2四半期 決算説明会

2025年11月25日



**極東貿易株式会社**

KYOKUTO BOEKI KAISHA, LTD.

TOKYO, JAPAN

- 2026年3月期中間期業績
- 中期経営計画「KBK プラスワン 2025」の取組み
- 2026年3月期業績見通し
- 株主還元・資本政策

## 2026年3月期中間期業績

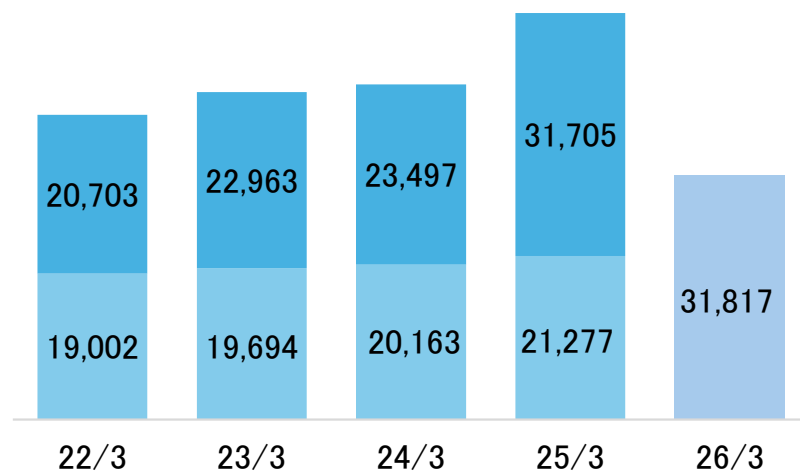
(単位：百万円)

	2025年 3月期 中間期累計	2026年 3月期 中間期累計	前年 同 期 比	増 減 率
売上 高	21,277	31,817	10,540	49.5%
売上 総 利 益	4,863	5,837	974	20.0%
営 業 利 益	796	1,275	478	60.1%
経 常 利 益	1,020	1,418	397	38.9%
親会社株主に 帰属する 中間純利益	767	937	169	22.1%

## 増収増益の主な要因

- 三幸商会とウエルストンの寄与  
2025年3月期第3四半期に  
グループ入りした2社の業績が寄与
- 好調事業
  - ・ 海外向けプラント機器事業
  - ・ 資源・計測機関連事業
  - ・ 航空宇宙・防衛関連事業

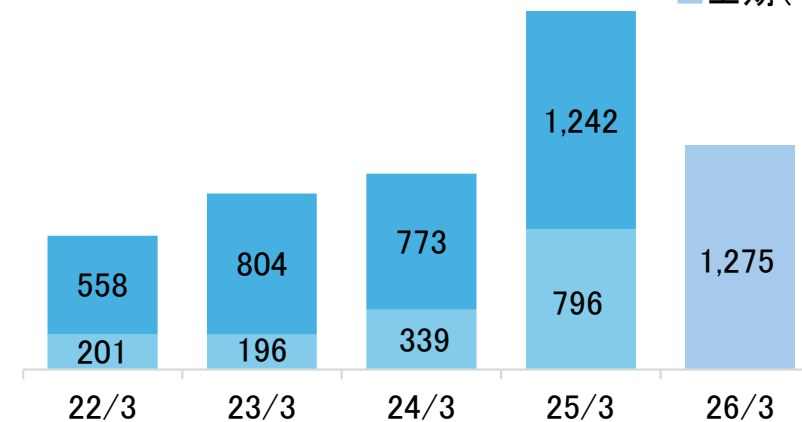
## 売上高



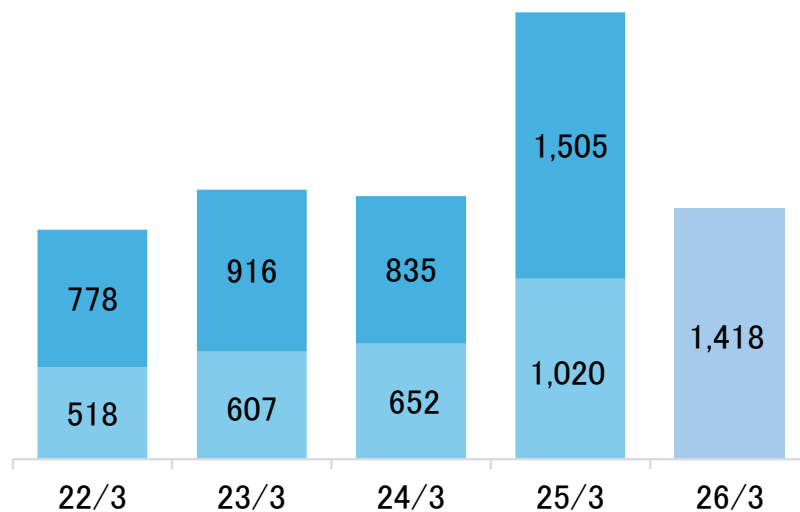
## 営業利益

(単位: 百万円)

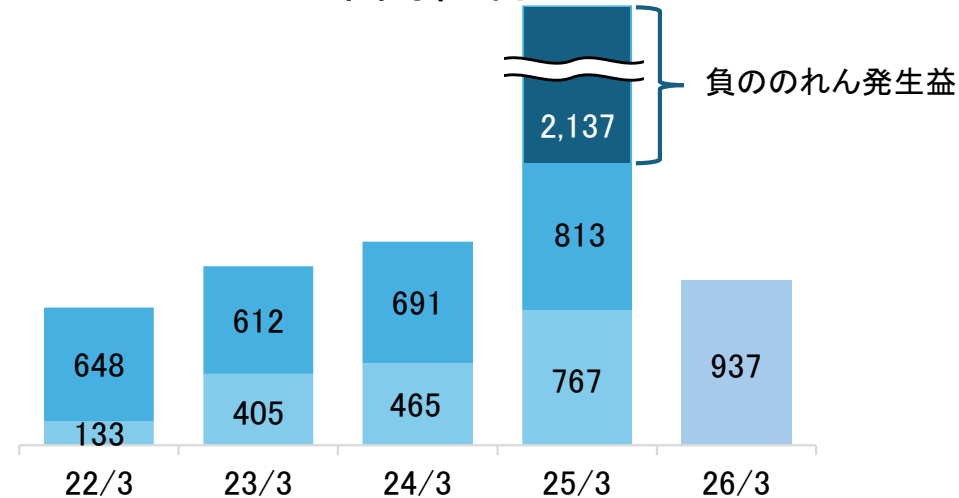
■ 前期  
■ 下期  
■ 上期(今期)



## 経常利益



## 親会社株主に帰属する 中間純利益



(単位：百万円)

	2025年 3月期	2026年 3月期 中間期	増 減
流動資産	43,688	40,806	▲2,882
固定資産	14,321	14,986	665
資産合計	58,010	55,792	▲2,218
流動負債	24,801	19,849	▲4,952
固定負債	3,852	6,505	2,653
負債合計	28,653	26,355	▲2,298
株主資本	23,914	24,133	219
その他の包括利益 累計額	5,441	5,304	▲137
純資産合計	29,356	29,437	81
自己資本比率	50.6%	52.8%	2.2%

## 主な増減要因

### ■ 流動資産の減少

- ・ 営業債権の回収

### ■ 負債の減少

- ・ 有利子負債の削減

### ■ 株主資本の増加

- ・ 利益剰余金の増加

### ■ その他の包括利益累計額の減少

- ・ 為替換算調整勘定の減少

# 連結キャッシュフロー計算書



KYOKUTO BOEKI KAISHA,LTD

7

(単位：百万円)

	2025年3月期 中間期累計	2026年3月期 中間期累計	主な増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	261	3,282	・税金等調整前中間純利益 (+1,576) ・営業債権(+2,603)
投資活動による キャッシュ・フロー	1,299	434	・投資有価証券の売却(+230) ・定期預金の払戻(+302)
財務活動による キャッシュ・フロー	▲1,055	▲3,362	・有利子負債の返済による支出 (▲2,565) ・自己株式の取得(▲302) ・配当金の支払額(▲422)

フリー・キャッシュ・フロー 275 3,414 ※定期預金による増減を除く

基礎営業キャッシュ・フロー 844 937

(営業活動によるキャッシュ・フローから運転資本の増減に係るキャッシュ・フローを除いた値)

(単位：百万円)

2025年3月期 中間期累計		2026年3月期 中間期累計		前年同期比			
売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高		セグメント利益	
5,701	295	8,112	523	2,410	42.3%	227	77.0%

## 前年同期に比べ増収増益

### ■ 産業インフラ関連事業

- ・ 海外プラント向け機器事業は、前年度実績を大きく上回って推移
- ・ 国内鉄鋼・化学プラント向け設備事業は好調に推移

### ■ 資源・計測機関連事業

- ・ 資源開発機器事業は、通信インフラ向け機器などが好調に推移
- ・ 航空宇宙・防衛関連事業も伸長
- ・ リチウムイオン電池関連事業は市場開拓により伸長



(単位: 百万円)

2025年3月期 中間期累計		2026年3月期 中間期累計		前年同期比			
売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高		セグメント利益	
6,818	140	13,891	328	7,072	103.7%	187	133.6%

### 前年同期に比べ大幅な増収増益

#### ■ 汎用プラスチック・エンジニアリングプラスチック事業

- ・ 前年度に連結子会社化した事業(三幸商会)の業績が寄与

#### ■ 機能素材関連事業

- ・ 北米向け自動車部品用樹脂が順調に推移

#### ■ 生活・環境関連事業

- ・ 航空機の機内設備向け接着剤の需要増加
- ・ 食品加工機械の保守・メンテナンス事業が伸長

(単位：百万円)

2025年3月期 中間期累計		2026年3月期 中間期累計		前年同期比			
売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高		セグメント利益	
8,756	355	9,814	418	1,057	12.1%	63	17.8%

## 前年同期に比べ増収増益

### ■ 精密ファスナー(ねじ類)関連事業

- ・ 米国における高金利・インフレの影響により、建設機械向け及び住宅設備向けの需要は減速するも、増収増益を確保

### ■ 特殊スプリング関連事業

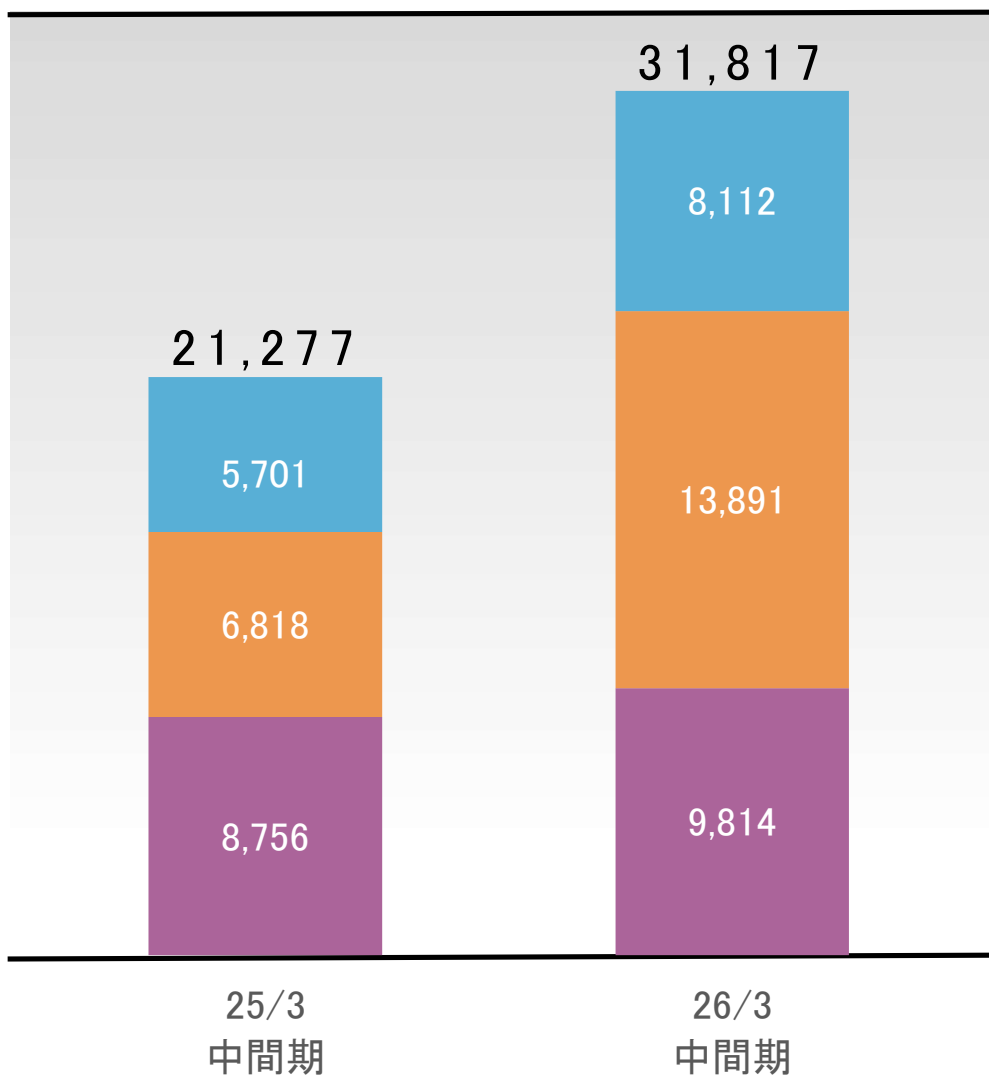
- ・ コンストン(定荷重ばね)などの拡販による増収、価格是正による収益性改善

### ■ 船舶補修部品事業

- ・ 前年度に連結子会社化した事業(ウエルストン)の業績が寄与

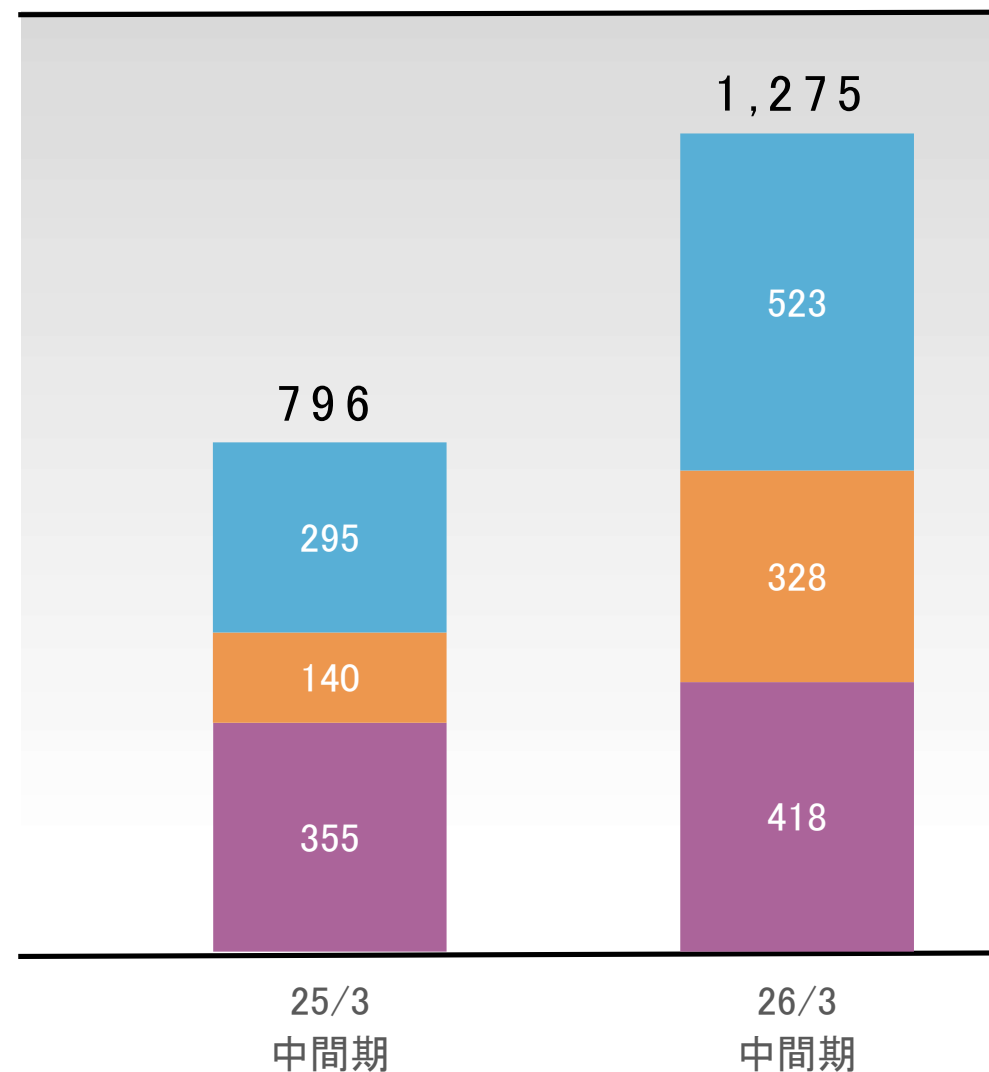
■ 産業設備関連 ■ 産業素材関連 ■ 機械部品関連

## ■ 売上高



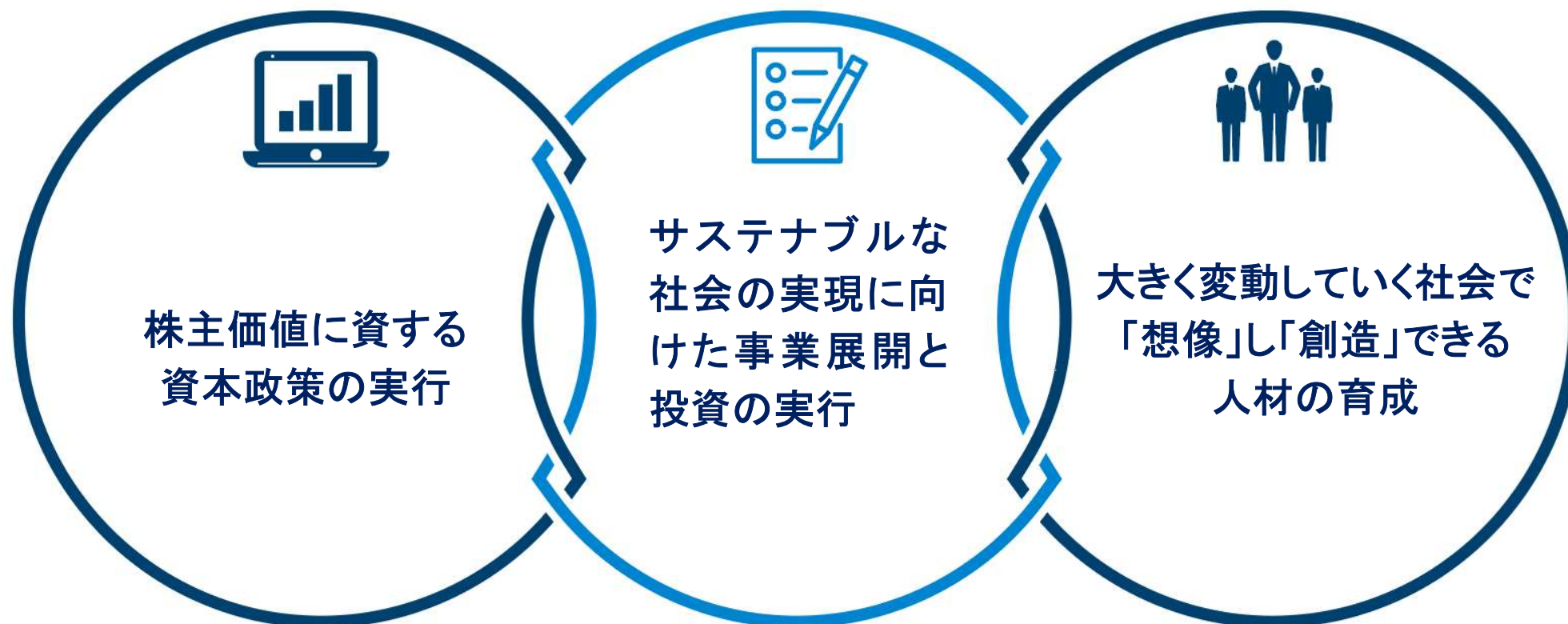
## ■ セグメント利益

(単位: 百万円)



## 中期経営計画「KBK プラスワン 2025」の取り組み

## 3つの重点施策



最重要取引先での実証成功を受け、構内特殊車両の自動化案件を推進中



## ■ 自動運転システム

- 大規模製造現場の構内などでの運用を目的とし、特殊車両やダンプトラックなどの自動化ソリューションを提供
- 英国AB Dynamics社のシステムを日本国内で独占販売
- 既存車両への後付け導入が可能な点が強み  
新規車両導入と比較し、コスト優位性を提供



## ■ 製鉄関連の取引先と搬送自動化を実証

- 製鉄所構内用の運搬用特殊車両の自動走行デモを実施・成功

## ■ 国内製鉄の特殊車両で

数百～1,000台の市場規模を見込む

デモの実績を積極的にアピールすることで、  
国内製鉄所への展開を加速





※撮影、無断転用はご遠慮ください。

## 洋上風力発電の導入プロセス全体にわたり当グループ全体として貢献

### 調査

- ・立地環境調査
- ・海域・気象・海象調査

風況・海象観測、海底地盤・土質、関係法令、社会条件の調査を行う。



風況観測/  
洋上風況観測用ブイ

### 設計・建設工事

- ・基本設計、実施設計
- ・建設工事

風車設置点と規模の決定、機種と支持構造物の選定、経済性の検討を行う。

基礎設置、風車据付、電気工事、海底ケーブル敷設、試運転・検査を行う。



特殊大型治具・架台類の  
設計・制作・販売・メンテナンス

### 運転保守

運転監視、定期・不定期保守、補修契約、保守点検を行う。



海中監視/  
作業用水中ロボット



## 洋上風力発電事業の調査に貢献する主力製品



- Floating Lidar Buoy (FLB)
  - 洋上風力発電における風車建設前の事業性評価（風況・海象観測）に用いられる調査機器
- 魚群探知機を搭載した世界初のFLBであり、風況・海象観測と同時に周辺の魚群データも測定可能
  - 魚群観測と風況調査を一度に実施でき、海域環境変化のリスクを効率的に評価
  - 漁群データ提供を通じて漁業関係者に付加価値を提供し、事業の合意形成を支援
- 石川県輪島沖でプロジェクトが進行中
  - 2025年9月12日より同海域にて調査を開始
  - 観測データを収集中

洋上開発の沖合化に伴い、ブイによる調査需要の増加を期待



※撮影、無断転用はご遠慮ください。

## TWD Japan: 特殊大型治具・架台類による差別化



- 建設工事(据付)に不可欠な特殊大型治具・架台類の設計・エンジニアリング及び製作・販売・メンテナンスを提供
  - ・ 案件ごとに顧客要求に合わせる「一品一様」の完全オーダーメイド設計が最大の強み
  - ・ オランダ TWD B.V社と独占的な協業契約を締結
- 世間では採算性悪化が取り沙汰されるも、引き続き高い成長余地を保持
  - ・ 第2・第3ラウンドは運転開始に向けて計画通りに進捗
  - ・ 当社も建設業者向け治具設計を順調に受注
  - ・ 現時点において、大手商社撤退の影響は限定的

特殊大型治具・架台類の設計・製作に注力するとともに、  
第4ラウンド以降も安定的な受注獲得を図る



## 環境に配慮した生分解促進添加剤



- 生分解促進添加剤「eco-one」
  - ・ プラスチック製品の海洋・土壌生分解を促進
  - ・ 製品寿命を縮めることなく、通常使用が可能
  - ・ ASTM(米国試験材料協会)の規格に基づき生分解性を確認
- 既にビーチサンダルに採用され販売開始
- その他、以下の関連分野でeco-oneの採用を検討中
  - ・ シューズ関連(ソールなど)
  - ・ 繊維関連(屋外用ネット、マットなど)
  - ・ 包装容器関連(食品用パック、梱包材など)



※ eco-oneの詳細:

<https://www.kbk.co.jp/ja/business/products/eco-one/>

多岐にわたる用途・業界への展開を促進し、  
持続可能な社会の実現に貢献

日本のインフラを支える重要技術。実績と社会的信頼が生み出す強固な事業基盤。



## ■ 地震計

- 当グループにおいて2022年から地震計の製造・保守事業を開始
- 設置場所と主な用途:
  - 原子力発電所 (緊急停止措置)
  - 鉄道・新幹線沿線 (安全制御)
  - 地下深部 (緊急地震速報)
  - 火山 (火山活動の監視)
- 東日本大震災等での納入実績が証明する高い信頼性を背景に、重要インフラ市場で概ね独占的に採用

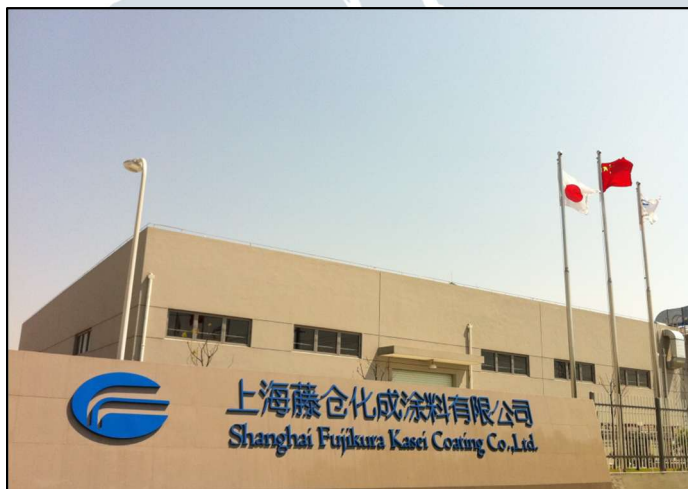
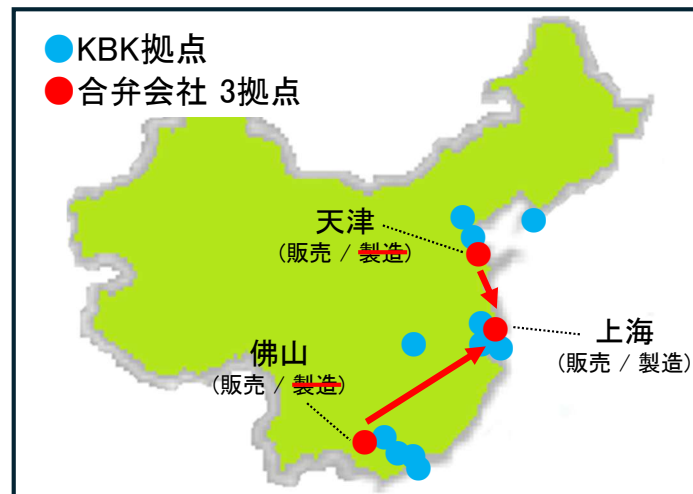


## ■ 安定的な需要があり、今年度も堅調な見通し

- 新幹線関連、地下深部(全国約1,000台)向けの継続的な機器更新受注が堅調に推移
- 中学校1年生の理科の教科書に掲載

高い参入障壁に基づく強固な事業基盤を維持しつつ、  
防災・減災分野へ積極的に貢献

## 製造販売体制の最適化を推進



### ■ 事業概要

- ・ 当グループとして11拠点を展開
- ・ 現地の日系自動車向け塗料を中心に事業を拡大

### ■ 課題

- ・ EV普及による日系車需要の減速
- ・ 製造拠点が分散しており、非効率なコスト構造

### ■ 製造機能の最適化(拠点集約)

- ・ 製造を担っていた合併会社2社(藤倉化成天津・藤倉化成佛山)について、  
上海(藤倉化成上海)への集約を決定
- ・ 天津・佛山での販売活動は継続

コスト構造を抜本的に見直し、当グループ全体の収益性を改善  
市況変化へ柔軟に対応し、製販の最適化を継続的に推進

## 2026年3月期業績見通し

# 連結業績見通し（対 期初通期見通し）

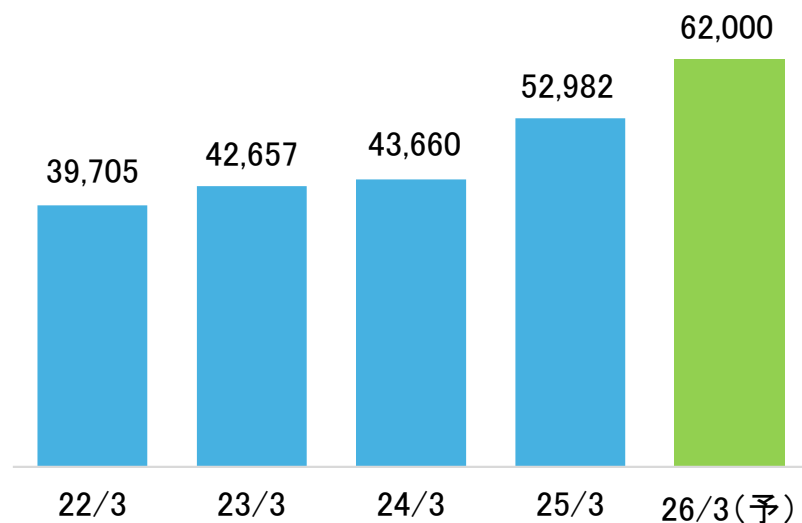
（単位：百万円）

	2025年3月期 実績	2026年3月期		通期見通し（期初） からの増減	
		通期見通し （期初）	通期見通し （修正）		
売上高	52,982	57,000	62,000	5,000	8.8%
営業利益	2,038	1,800	2,200	400	22.2%
経常利益	2,525	2,100	2,350	250	11.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,717 (1,580)	1,600	1,700	100	6.3%

カッコ内は、負ののれん発生益2,137百万円を除いた当期純利益

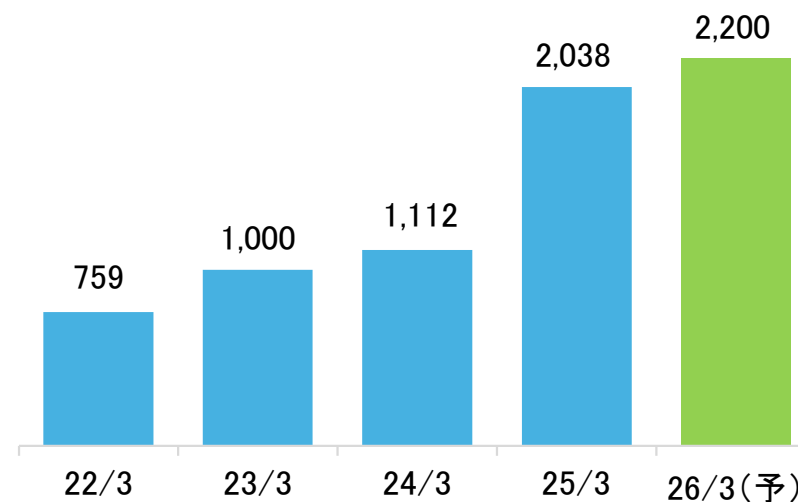


## 売上高

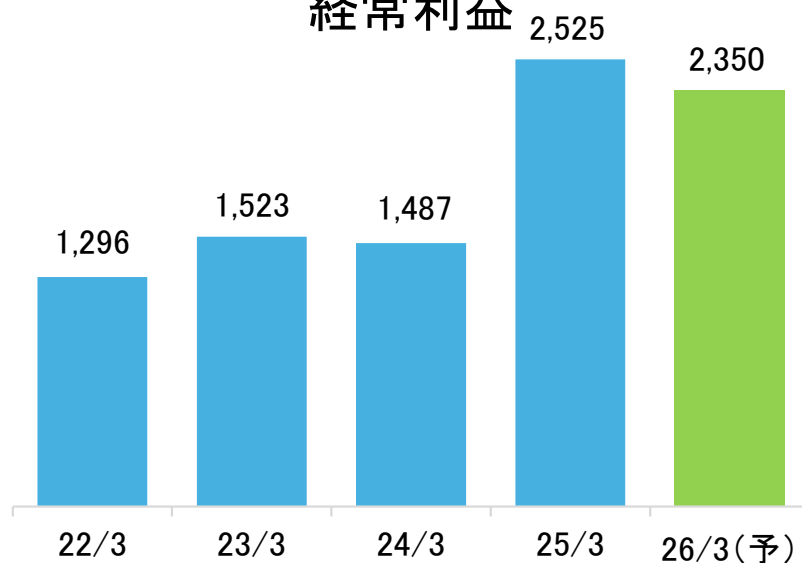


## 営業利益

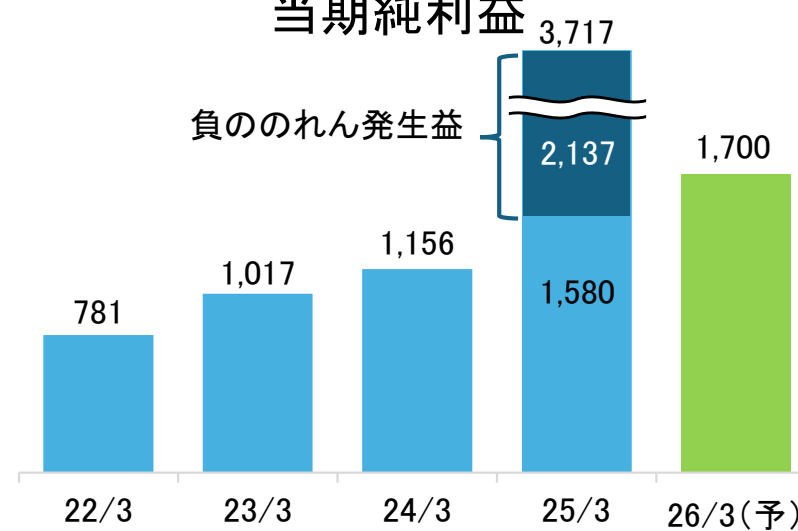
(単位:百万円)



## 経常利益



## 親会社株主に帰属する 当期純利益



## セグメント別業績① 産業設備関連部門（対 前年同期比）

（単位：百万円）

2025年3月期 通期実績		2026年3月期 通期見通し		前期比			
売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高		セグメント利益	
14,744	1,038	15,920	930	1,176	8.0%	▲108	▲10.4%

## 前年度に比べ増収減益

### ■ 産業インフラ関連事業

- ・ 国内鉄鋼・化学プラント向け設備事業は一服
- ・ 地震振動機器関連事業は、前年度に特需あり下振れ

### ■ 資源・計測機関連事業

- ・ 資源開発機器事業は、好調継続
- ・ 航空宇宙・防衛関連事業も引き続き伸長
- ・ 自動車検査装置事業は、前年度に高収益案件が集中した反動により減速

## セグメント別業績② 産業素材関連部門（対 前年同期比）

（単位：百万円）

2025年3月期 通期実績		2026年3月期 通期見通し		前期比			
売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高		セグメント利益	
19,444	141	26,700	560	7,256	37.3%	419	297.2%

### 前年度に比べ増収増益

#### ■ 汎用プラスチック・エンジニアリングプラスチック事業

- ・ 中国経済鈍化、米国関税政策による減速があるものの、部門の増収増益に寄与

#### ■ 機能素材関連事業

- ・ 北米向け自動車部品用樹脂は、下期で北米の需要減速を見込む

#### ■ 生活・環境関連事業

- ・ 航空機の機内設備向け接着剤は好調継続

尚、前年度にM&A経費(213百万円)の計上あり

## セグメント別業績③ 機械部品関連部門（対 前年同期比）

（単位：百万円）

2025年3月期 通期実績		2026年3月期 通期見通し		前期比			
売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高		セグメント利益	
18,792	858	19,380	710	588	3.1%	▲148	▲17.3%

### 前年度に比べ増収減益

#### ■ 精密ファスナー(ねじ類)関連事業

- 中国・アセアン地域での自動車向けの不調、北米地域でのインフレ・高金利化の影響による住宅設備需要の減退、販管費の増加により減速

#### ■ 特殊スプリング関連事業

- 売上回復に加え、構造改革の結果が表れ大幅改善

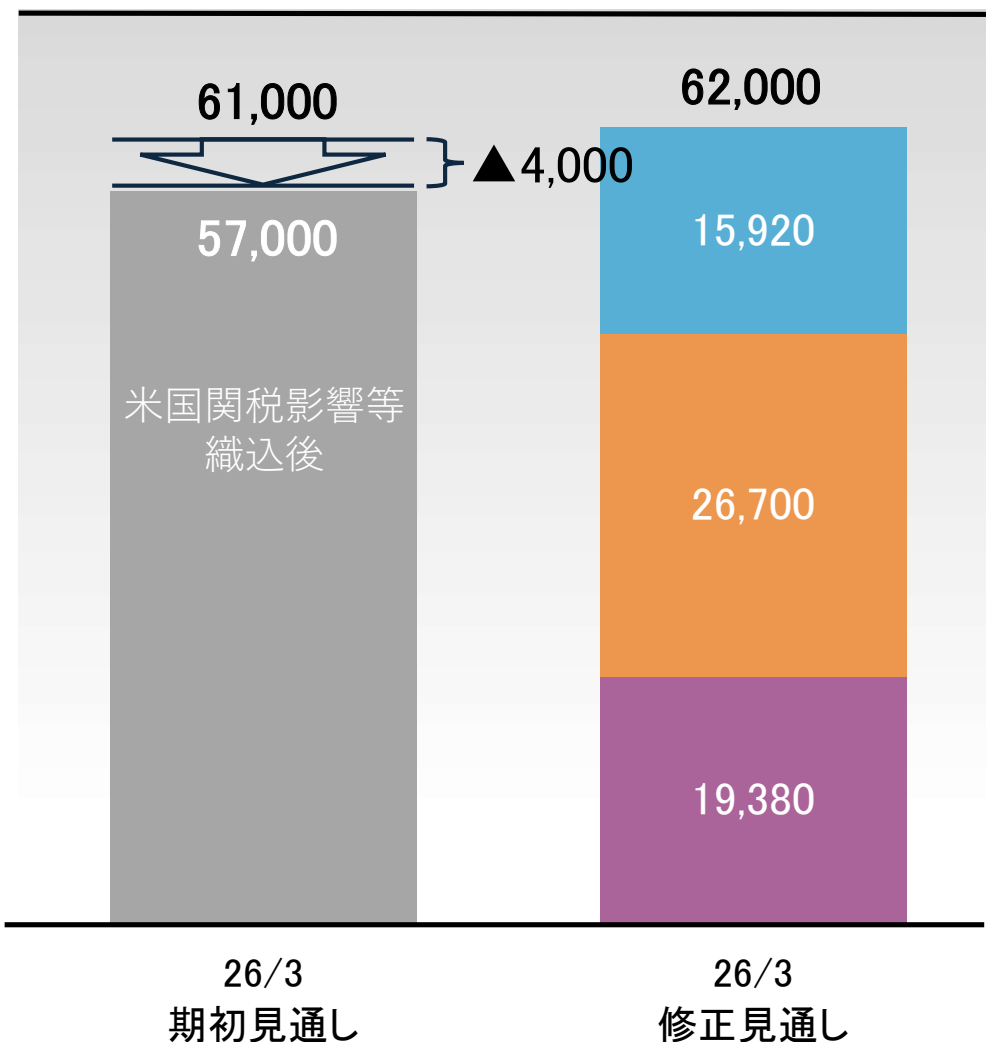
#### ■ 船舶補修部品事業

- 需要低下により減速

# セグメント別業績推移見通し（対 期初通期見通し）

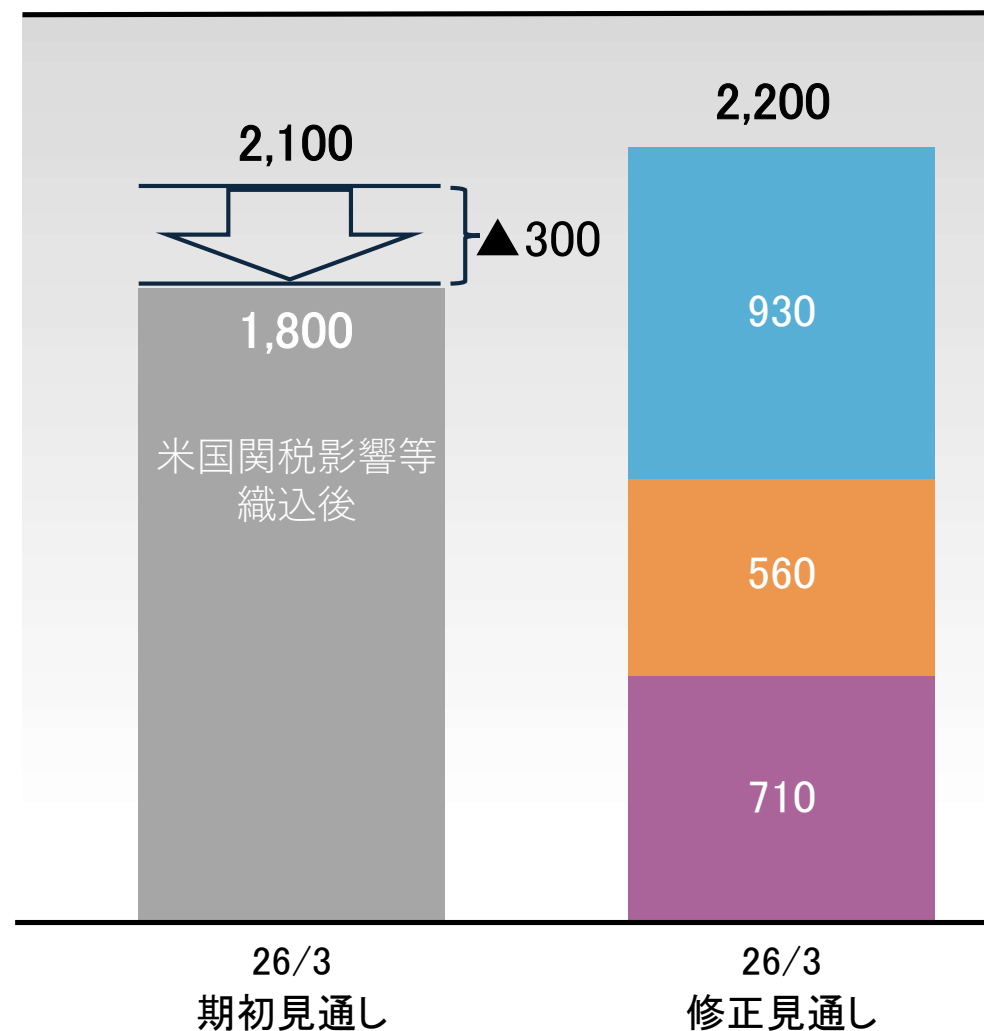
■ 産業設備関連 ■ 産業素材関連 ■ 機械部品関連

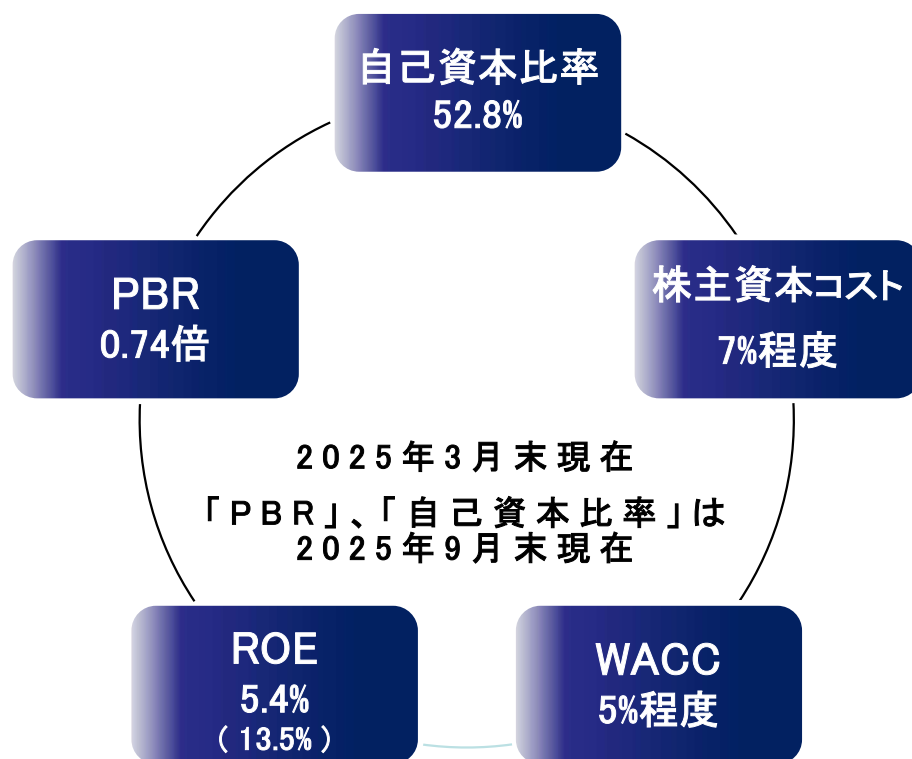
## ■ 売上高



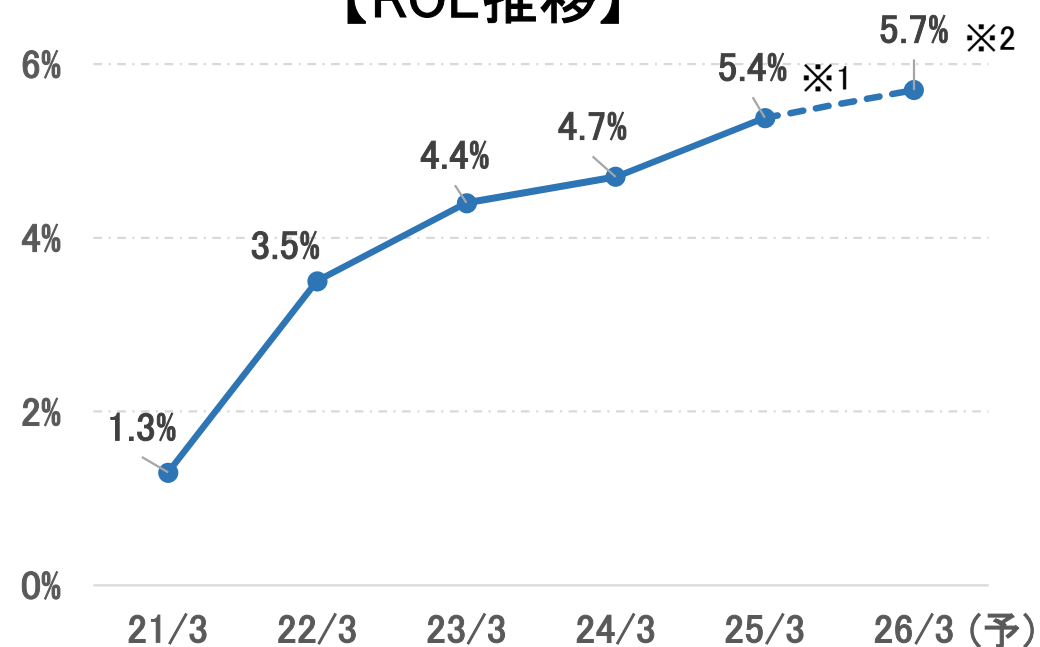
## ■ セグメント利益

（単位：百万円）





## 【ROE推移】



※1 負ののれん発生益を含めたROEは13.5%

	中計最終年度目標	2026年3月期 通期業績見通し
連結経常利益	19億円	23億50百万円
ROE	5.4%	5.7% ※2

※2 ROE算出の前提条件

自己資本の算定に用いる「その他の包括利益累計額」は、中間期末(2025年9月30日)の貸借対照表の数値に基づいています。

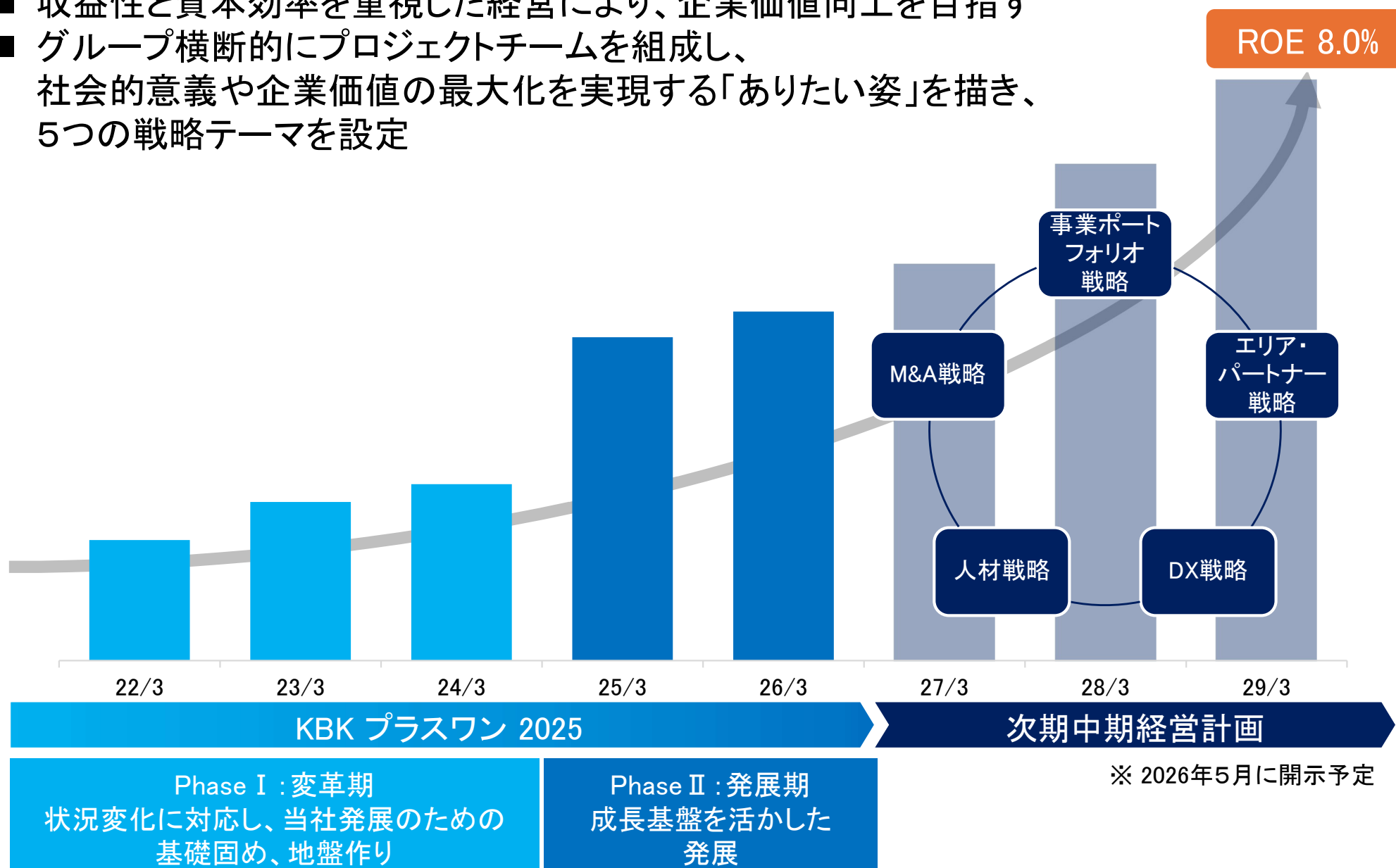
## 2026年4月から始まる次期中期経営計画に向けて



31

KYOKUTO BOEKI KAISHA, LTD.

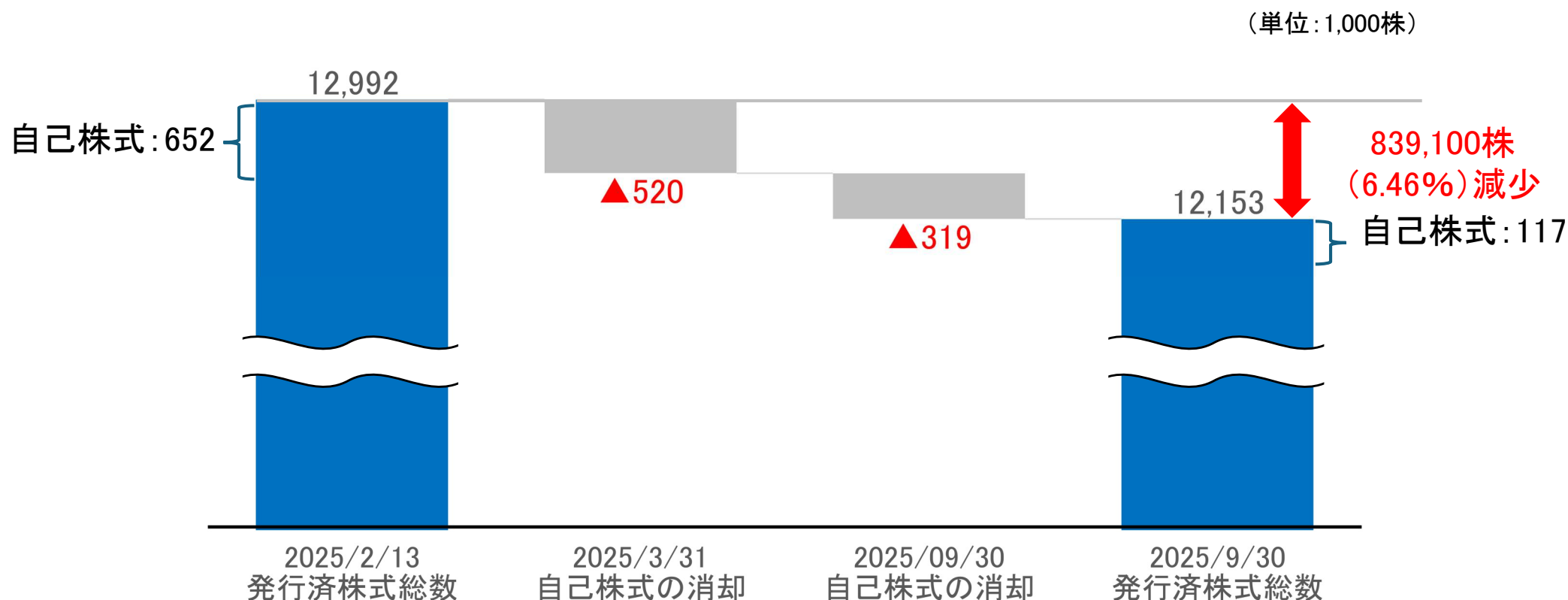
- 収益性と資本効率を重視した経営により、企業価値向上を目指す
- グループ横断的にプロジェクトチームを組成し、社会的意義や企業価値の最大化を実現する「ありたい姿」を描き、5つの戦略テーマを設定



## 株主還元・資本政策



2025年2月13日の当社取締役会での決議事項を踏まえた、自己株式の取得および消却の状況



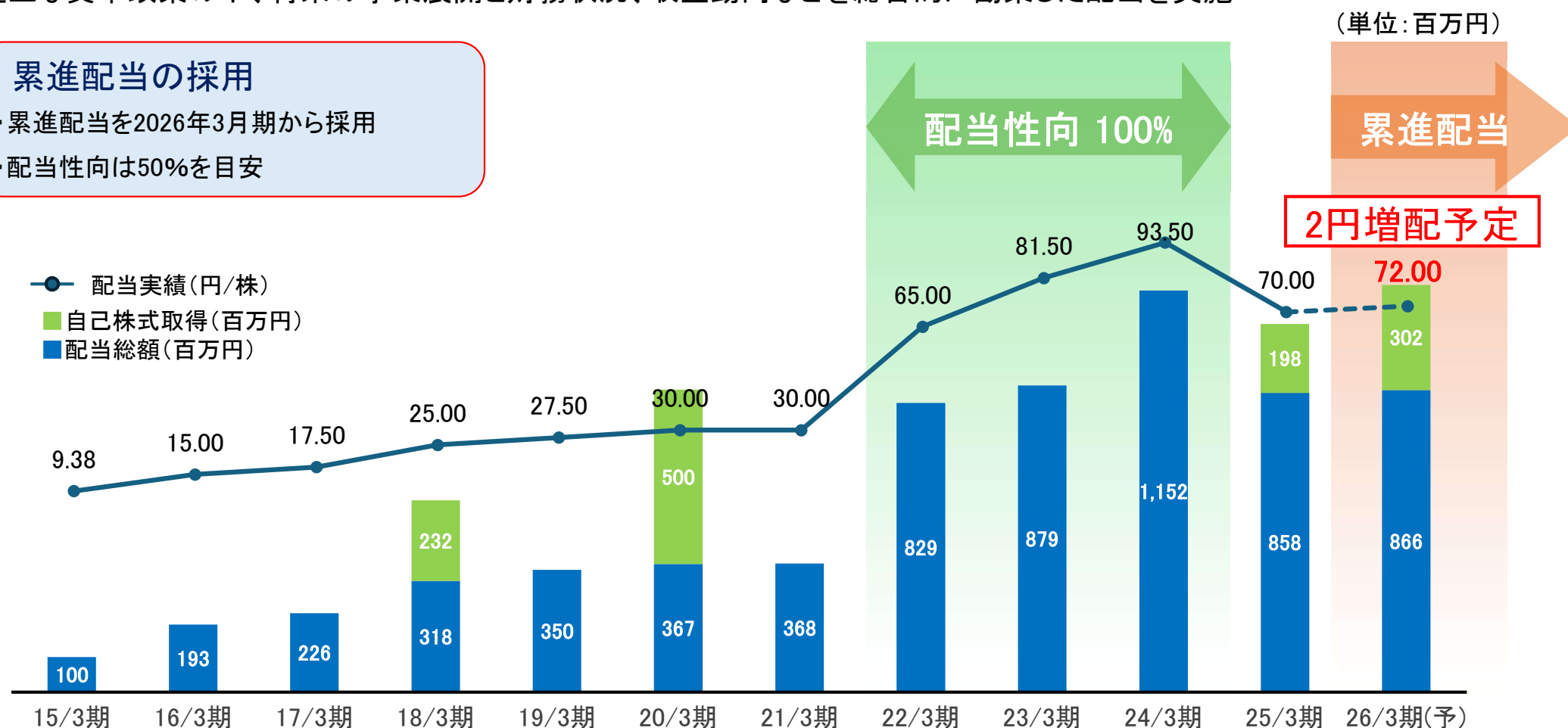
取得	取得した株式の総数	319,100株
	取得価額の総額	500百万円
	取得期間	2025年2月14日 ~ 2025年7月15日
消却	消却実績	2025年3月31日: 520,000株、2025年9月30日: 319,100株

## ▶極東貿易の利益配分の基本方針

株主の皆様への継続的な成果の還元と企業価値の持続的向上を実現するため  
適正な資本政策の下、将来の事業展開と財務状況、収益動向などを総合的に勘案した配当を実施

### 累進配当の採用

- ・累進配当を2026年3月期から採用
- ・配当性向は50%を目安



※2018年10月1日付で普通株式5株につき、1株の割合で株式併合を行っております。

2022年9月1日付で普通株式1株につき、2株の割合で株式分割を行っております。

配当実績はこれらの影響を加味し遡及修正を行っております。



### 見通しに関する注意事項

この決算説明資料に記載されている売上高及び利益等の計画金額は、いずれも、当社及び当社グループ会社の事業に関連する業界の動向についての見通しを含む国内及び諸外国の経済状況、並びに各種通貨間の為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因についての現時点での入手可能な情報をもとにした見通しを前提としています。

これらは、市況、競合状況、新規取扱商品の導入及びその成否等、多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の売上高及び利益等は、この資料に記載されている計画とは大きく異なる場合があります。